

(仮訳)

プレス・リリース

2020年6月17日

バーゼル銀行監督委員会は会議を開催し、新型コロナウイルス感染症の影響を議論し、バッファーに関する指針を改めて表明

バーゼル銀行監督委員会（以下「バーゼル委」）は2020年6月10日と16日に会議を開催し、政策上の諸課題について議論するとともに、新型コロナウイルス感染症のパンデミックがこれまでにグローバルな銀行システムに対して与えた影響についてレビューした。

現在の危機は、強靱な銀行システムと健全性規制枠組みの重要性を強調している。パンデミックの初期にバーゼル委が講じた措置は、短期的な金融安定上のリスクの一部を軽減する助けとなった。すべてのメンバーは、中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループが承認した見直し後の実施時期に基づき、すべてのバーゼルⅢ基準が完全、適時、かつ整合的に実施されるべきものである点を再確認した。

パンデミックは新たなフェーズに突入した。その影響と対応は法域毎に異なっており、グローバルな経済見直しには不確実性が残っている。銀行及び監督当局は、グローバルな銀行システムが引き続き財務上及びオペレーショナルに強靱であることを確保するため、このパンデミックから生じるリスクと脆弱性に対し、緊張感を維持しなければならない。

バーゼルⅢの枠組みは、最低所要水準に上乘せされる資本バッファーを含んでいる。これらのバッファーは二つの目的を有している。第一に、銀行がストレス下でも最低所要水準を割り込むことなく損失を吸収できることを確保することである。第二に、信用力の高い企業や家計への貸出を通じて、景気後退時に実体経済への信用供与を維持する助けとなることである。現在は、資本リソースを用いて実体経済を支援し、損失を吸収することが優先されるべきである。

バーゼルⅢの枠組みはまた、銀行に対して適格流動資産をバッファーとして保有することを求めている。このバッファーは銀行が流動性に関連するショックを吸収し、実体経済への貸出の流れを維持する助けとなるものである。

バーゼル委は、これらの目的を達成するために、銀行がバーゼルⅢ上のバッファを慎重に取り崩すことは、想定されていたことであり、適切であると考えている。監督当局は、経済や市場の状況、個々の銀行が置かれた環境を考慮し、バッファを再建させるまでに十分な時間を与える。

バーゼル委は、今次危機への対応としてメンバーが講じた規制監督上の国内措置についてレビューし、これらの措置についての状況把握（ストックテイク）について、金融安定理事会（以下「FSB」）による2020年7月のG20財務大臣・中央銀行総裁バーチャル会合への報告のために提出することに合意した。

バーゼル委は、新型コロナウイルス感染症によるグローバルな銀行システムに対する脆弱性やリスクを引き続きモニターし、必要であれば追加的な措置をとる。バーゼル委はまた、分野横断的な金融上の論点について、FSBや他の基準設定主体と連携して対応していく。

新型コロナウイルス感染症に関連した議論に加えて、バーゼル委は以下を承認した。

- 信用評価調整（CVA）リスクの枠組みの最終調整（今後数週間以内に公表予定）
- 不良債権を裏付資産とする証券化商品の健全性規制上の取扱いに関する技術的改訂についての市中協議文書（来週公表予定）

メンバーは、銀行の金利指標改革に関する進捗について状況把握を行い、銀行の代替金利指標への移行により生じる潜在的な規制上の含意について議論した。バーゼル委は、本件の優先度を高く位置付けており、すべての銀行が移行期限に間に合うように、適切に準備できていることを期待している。

バーゼル委は、暗号資産の健全性規制上の取扱いに関するディスカッション・ペーパーに対するコメントについてもレビューし、将来市中協議を実施することを視野に、次のフェーズの作業計画を承認した。